

主な記事

- ・第25回高知市少年非行防止ポスター展について
- ・子育てを考えるシリーズ56

補導センター便り

高知市塩田町 18-10
 保健福祉センター2階
 高知市少年補導センター
 電話 088-824-6671
 FAX 088-824-6816
 E-mail: kc-200900@city.kochi.lg.jp
 発行人 吉川 佳余

第25回 高知市少年非行防止ポスター展

少年非行防止ポスター展は、中学生自身の非行防止に対する意識を高めるとともに、その作品を広く市民の方に発表し、啓発を図ることを目的として実施しています。

本年度は、市内11校から573点の応募がありました。喫煙、飲酒、薬物、万引き、自転車盗難等の防止を訴える作品のほか、いじめ、ネットトラブルにかかわるテーマの作品も多く見られました。

厳正な審査の結果、特選4点、優秀6点、優良20点、入選35点、佳作61点を選考し、令和7年11月13日(木)に高知市保健福祉センターにおいて、特選・優秀受賞者の表彰状授与式を行いました。

なお、特選・優秀・優良の30作品については、昨年12月18日(木)から本年1月7日(水)までの間、オーテピアにて展示を行いました。



たくさんのご応募ありがとうございました。



【表彰状授与の様子】

特選・優秀作品のご紹介



【特選】一宮中学校3年 瀧本 有理さん



【特選】学芸中学校3年 徳久 優里さん



【特選】高知中学校2年 藤政 絢華さん



【特選】城東中学校3年 鎌倉 しずくさん



【優秀】学芸中学校3年 西内 泉音さん



【優秀】学芸中学校3年 西内 舞歩さん



【優秀】学芸中学校3年 北川 咲絵さん



【優秀】学芸中学校3年 矢野 倅望さん



【優秀】高知中学校2年 塩田 翔太さん



【優秀】城東中学校2年 佐竹 星七さん

特選・優秀・優良の皆様（敬称略）

受賞者の皆様 おめでとうございます！



【特選・優秀受賞者と竹内教育次長(左)吉川所長(右)】

城東中	高知中	学芸中	学芸中	学芸中	学芸中	【優秀】	城東中	高知中	学芸中	【特選】
2年	2年	3年	3年	3年	3年		3年	2年	3年	3年
佐竹	塩田	矢野	北川	西内	西内		鎌倉	藤政	徳久	瀧本
星七	翔太	倅望	咲絵	舞歩	泉音		しずく	絢華	優里	有理

受賞作品は、ポスターやチラシなど各種広報活動に活用させていただきます。

大津中	大津中	学芸中	学芸中	学芸中	学芸中	学芸中	学芸中	城北中	城北中	高知中	春野中	行川学園	青柳中	城東中	城東中	潮江中	潮江中	介良中	介良中	【優良】
1年	1年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	2年	2年	8年	2年	3年	3年	3年	3年	2年	1年	
高橋	島村	平松	藤川	大野	伊野部	野並	中村	金子	高橋	岩目地	北村	檜垣	半田	大西	工藤	寺岡	田中	山崎	マリサ	
柚花	寿々歌	亜桜里	莉沙	楓歩	陽翔	咲希	怜愛	紅	ナミ	永悟	麻奈	苺花	麗禾	吟佳	遼馬	絆愛	琴子	彩香	サラギ	

特選受賞生徒にインタビュー「作品に込められた想いを教えてください」

※インタビュー内容は、原文のまま掲載しています。



近年、スマホを持つことが当たり前になってきています。そのときにスマホを使う場面をよく考えて行動してほしいなと思い、この作品を描きました。

誰にも見られていないつもりで万引きをしても、その罪があばかれるこわさをこのポスターで感じてもらいたいという想いを込めました。



自分の価値観を他人に押し付けるんじゃなくて、自分とちがうからその人の個性が認められるということや、「みんなちがってみんないい」を広めることができればいいなと思いました。

私は保健の授業などで友達やしんせきの人にお酒をすすめられて断れずに飲んでしまう人がいることを知りました。だから、私の絵を見て断る勇気をだして自分を守ってほしいと思いをこめて絵をかきました。





「人権擁護委員」「保護司」の仕事から

元高知市立 小・中学校 校長

人権擁護委員、保護司

宮田 龍



2019年（令和元年）から、高知大学（物部キャンパス）で非常勤講師として、教職科目集中講義「生徒指導・進路指導E」を務めています。今年の講義の一部を紹介します。

児童・生徒の「自己指導能力の育成」と「社会性の育成」には、学校の日々の教育活動に加え、多様な関係機関との連携が欠かせません。その具体策やあり方を考えるきっかけになればと思います。教育現場や関係機関で活躍している方をゲストに招き、チームティーチング形式で授業を行っています。近年は、「人権擁護委員」と「保護司」を招いての講義を行っています。

人権イメージキャラクター人KENまもる君と人KENあゆみちゃんは、漫画家やなせたかしさんのデザインにより誕生しました。2人とも、前髪が「人」の文字、胸に「KEN」のロゴで、「人権」を表しています。人権が尊重される社会の実現に向けて、全国各地の人権啓発活動で活躍しています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「自分事」の大切さ

今年は、2コマの授業で、ゲストティーチャーとして招いた、高知地方法務局人権擁護課の職員と人権擁護委員に「人権擁護の重要性と人権擁護委員の具体的な活動」について語ってもらいました。

法務大臣が委嘱したボランティアの人権擁護委員は、地域で人権に関わる相談を受けたり、問題解決を支援したりするほか、人権に関わる啓発もしています。講義では、法務省の人権啓発キャッチコピー「『誰か』のこと じゃない。」について説明していただきました。「私たちは、どこかの遠い『他人』である誰かが、マイノリティであっても、特段気にしないばかりかエールを送るけれど、それが『身内』に入ろうとしたらすると、シビアな本音が出る。それが、私たちの姿なのである。」などと語り、社会に内在するさまざまな人権問題を「自分事」として捉え、差別をなくす意識が大切と強調されました。

差別をなくしていくための日常の取組も詳細に紹介して、子どもが悩みや困りごとを相談する方法としては、面談や電話による相談のほか「こどもの人権SOSミニレター」による概要を語り、ミニレターは、「学校でのいじめや体罰、児童・生徒に対する暴言、不適切な指導、家庭での虐待のほか、学校や家庭での悩み事などを相談する。」ために学校に配布されています。

次に、仮の相談例に人権擁護委員としての回答内容を考えました。仮の相談例は、「注意欠陥多動性障害と診断された児童からのもので、障害が一因となってさまざまないじめが起きている





といった内容」です。この授業について、学生からは、「子どもの悩みを解決するという事に全力を尽くしているのが伝わり、感動した。いじめ問題は、教員が発見した頃にはだいぶ進行している場合が多い。自分が教員になったら、まずは子どもが自分からSOSを出せるような環境づくりを進めたい。」
 「ミニレターのワークショップでキャッチコピーを考えながら、レターの存在そのものをもっと広める必要性を感じた。困ったときに支援してくれる人がいると分かるだけでも、子どもは安心できる。」といった意見が寄せられました。

各学校に設置していただいています「SOSミニレターのラック」

☆☆

「寄り添う人の存在が重要」

1コマ(100分)を使い、高知保護区保護司会会長、副会長、事務局長の3人を招き、「保護司の職務、保護司活動の内容、具体的な保護司活動での厳しさと喜び」を投げかけてもらいました。保護司も人権擁護委員と同様に法務大臣からの委嘱で、ボランティアで活動しています。

保護司は、非常勤の国家公務員で、犯罪などをした人の立ち直りを地域で支えることが役割です。講師の3人からは、過去の支援事例が語られるとともに、「環境が厳しいものであっても、誰か一人でも寄り添う家族が居れば、立ち直りが早い。その家族を支援することも私たちの役目である。」といった説明がありました。学生からは、「自分は比較的恵まれた環境にあったからこそ、大学生になり、今の生活を送ることができているのだと改めて感じた。自分とはまったく異なる環境や価値観に置かれ、結果として犯罪をしてしまう人がいることを忘れないようにしたい。」「今回の授業で初めて『保護司』の存在を知った。加害者側に寄り添う人がいることの重要性を強く認識した。更生には至っていない人と向き合い、じっと話に耳を傾けるのは本当に難儀なことだろう。対象者の小さなサインに気付き、まずは受け止めるといった姿勢が大事だと再確認できた。教師になったら、今日の学びを子どもたちのために生かしたい。」などの感想がありました。



「社会を明るくする運動」
 高知市推進委員会と高知保護区保護司会 主催の「高知保護区中学生弁論大会」は、今年で31回を重ねています。中学生の素晴らしい弁論により、大きな感動をもらっています。
 〈11月8日(土) 高知会館にて〉

☆☆

子どもを含め社会を支える仕事は、「豊かな海にするには、山に木を植える仕事」

私は、人権擁護委員としての相談を受けて、「社会には、多くの人権課題が山積しており、それを解決するには、自己啓発と学習(お互いに学び合うこと)の教育実践が重要。」と考えます。

自分を大切に、他人を大切にする心を育てることが大切です。

また、保護司として対象者に向き合うと、多くの方は小学校からの不登校傾向があり、基礎学力がついていません。きちんとした生活習慣や基礎学力の定着するために家庭教育、学校教育、社会教育の分野での支援が必要であると切に感じます。

私たちの仕事は、「豊かな海にするには、山に木を植える仕事」と考えます。